

宇宙システム海外展開タスクフォースの取り組みによって得られた教訓および 今後の課題への対応に向けて議論すべきポイント

中須賀

1. 宇宙システム海外展開タスクフォースにおいて明確となった課題
 - (1) 長期的かつ持続的な取り組みを可能とする体制の構築
 - (2) 官民連携の在り方、(人材育成や研究協力等の) パッケージ検討
 - (3) 新産業・新サービスの創出との連携
 - (4) エネルギー資源確保、環境管理、地球規模課題対策等への対応との連携

→ 上記の点は、タスクフォース活動の目的である商業宇宙市場の拡大のみならず、中間とりまとめにおいて、今後、検討を深める他の課題とあわせて検討することで、重複を避けつつ、シナジー効果が期待される。

2. 連携する意義があり、シナジー効果が得られる主な活動
 - (1) 調査分析機能／重要国におけるリエゾン機能の強化
→人材育成や調査事業の連携：OBOG ネットワーク等の有効活用
 - (2) 新産業・新サービスの創出 (SNET)
→グローバル展開を前提とした新サービスの実証・FS 調査、共同研究
 - (3) リモセンニーズの検討や、準天頂・電子基準点の活用等における地球規模課題、開発課題への対応との連携、SDGs 等の活動との連携
→ 国際協力や科学協力を戦略的に展開し、プレゼンス拡大を目指す。
 - (4) 人材育成・専門家派遣・共同研究実施
→ 上記、各種活動を人材育成や共同研究・インキュベーションを統合的・横断的に連携してすすめるべき。

3. 今後の対応課題の試案

企業・大学の独立した経営判断等を前提とした自主的な取り組みを中心に、産学官連携による人材育成、共同研究推進、専門家派遣、OBOGの組織化、新サービスインキュベーションを推進する事業体、コンソーシアム、またはこれらの連絡組織を確立する。実際に動くプレイヤーの継続的確保・育成がカギ

* 人材育成や講師派遣等は、市場開拓を目指す企業や関係強化を目指す大学の自主的な活動との連携で自立発展的な枠組み構築が期待される。産学主導で、宇宙政策委員会と連携の上、関連施策との連携を深めることが期待される。

例：グローバルな宇宙産業の人材育成を進める e-ラーニングシステム構想